



国頭地区中体連夏季総体が終わり、3年生は競技種目によっては最後の大会となりました。今年度は、応援回も含め全校体制の参加となりましたが、試合も応援も一生懸命の子ども達に改めて感動させられました。本中生としての「チームワーク」が感じられる大会となり、今後の学校生活や行事等の取組にも「チーム」で取り組もうとする子ども達をさらに応援していきたいと思えます。

★職場体験学習★

6/13（火）、2学年の職場体験学習が行われました。本校2年生94人の生徒たちを本部町内46の事業所に受け入れて体験させていただきました。各事業所においては、お忙しい中にもかかわらず、子ども達の体験にご協力いただいたことに感謝申し上げます。

～体験後の「本部町魅カづくり」のグループ合作アイデア～

・名桜ボウリングを主催し、ボウリング場の中にミニコンビニやスタバをつくる。また、ボウリング大会などで入賞した場合はスタバの券や藍染めされた洋服をプレゼントするなど、楽しみをつくる。（具志堅希愛、古堅心海、松田裕達、新川綜良）

・ネオパークにいる動物を、美ら海の海洋文化館でパンフレットとして置くことで、美ら海に来てパンフレットを見た観光客も興味がわき、実際に来てもらって人気がでると思う。（大城果凜、堀内心愛、古堅三月、踊場叶）



★「もし地球が100人の村だったら」★

6/8（木）、1年生の総合的な学習の時間で「もし地球が100人の村だったら」についての取組が行われました。二酸化炭素排出量の地域別の比較や世界的な生活格差・不平等、食品ロスなどの問題について体験を通して学ぶことができました。

～生徒の感想など～

・私が世界をコントロールできたら、誰も不平等にせずみんなを平等にして差別、いじめ、戦争や争いをやめて、みんなが幸せで平和に暮らせる世界にしたいです。（1-1吉政来風）

・これからは、みんなが幸せに生きられるように、お互いに助け合ったりたくさんの人と関わられるようにしたいと思った。（1-2具志堅湖娃）

・世界には、ご飯が食べられない人、文字が書けない人などがたくさんいることが分かったし、自分たちは毎日茶わん一杯分のご飯を捨てていることがわかったのでむだにならないようにしたいです。（1-3仲程大翔）



【平和学習会】

6/16（金）、沖縄県立博物館学芸員の宮城修先生をお招きし、全生徒を対象とした平和学習会が各学年ごとに行われました。

生徒は、地域住民を巻き込んだ沖縄戦の特徴や日本軍との関わりなどを学び、戦争がもたらした当時の悲惨さや非人間的な行動について考えさせられました。

※裏面に生徒の感想を載せております。ご覧ください。



【新職員紹介】

6/5（月）から本校に新職員が勤務することとなりました。学習支援員の呉屋渉（ごやわたる）先生です。よろしくお願ひします！



・これまで何回平和講演会を聞いてきても、毎回新しい学びがあります。今日の講話の中でも、私は14年間本部に住んでいるのに、初めて東に忠魂碑があることを知ったし、この忠魂碑は大正4年という日本でも早めにつくられたもので、国のために戦死した人を祀っているものだと知りました。また、沖縄戦前にも第一次世界大戦などの影響でご飯が食べられなくなる人もいて、毒のあるソテツにまで手を出して亡くなった人もいたソテツ地獄という状況があったことにも驚きました。沖縄戦の中で一番死者が出たのは6月1日～23日の期間だけど、米軍に首里が占領された5月下旬でほとんど敗北が決まっていたのに、戦争を続けさせた日本は本当に命の大切さを知らない人たちだったんだらうなと思い、怒りとともに悲しさを感じました。講演会で特に印象に残っている言葉は、「カンポーヌクエーヌクサー」です。戦争で生き延びた人々のことを表している言葉だけど、祖父と祖母が亡くなっていたら私どころか父もいないことを考えたら、すごく命の重さを感じました。(3-2崎濱みずず)

・今日の講演で学んだことは、沖縄住民の犠牲者の多さです。年をとった人から若い少年までもが軍人になり出されたことをこわく思います。私と同じ年の子がひめゆりにつき、軍人の手当てをしているのを想像すると可哀想だと思います。大田さんが、壕に出入りするからスパイとみなされて殺されるのも残酷だなと思いました。沖縄戦を生き延びた人のことをカンポーヌクエーヌクサーと食べ残しを表現するには少し変な感じがしました。私は戦争について多くのことを知っていたつもりでしたが、もっと色々な話が出てきて興味深かったです。沖縄で地上戦が行われたことはとても悔しいですが、沖縄に産まれたので戦争について深く関わっていきたいと思います。(3-3仲井間萌生)

・沖縄戦は本土よりも使われた爆弾の量や死者が多いことから、沖縄は本当に悲惨であったんだと思いました。その中でも、特に大田さんはかわいそうでした。なぜなら、日本軍に食料をあげていただけなのにスパイになるかもしれないから殺されてしまったからです。沖縄戦では、大田さんのように戦いで死んだのではなく、それ以外の理由で殺されてしまった人もいることがとても恐ろしいです。私はこのような悲しい体験は絶対にしたくないです。これからもずっと平和が続くように、話を受け継いだり、戦争について世界に発信するなどして、できることから少しずつやっていきたいです。(3-3仲田響)

・講演を聞いて、太田守徳さんの死のエピソードが印象に残りました。親切心を持って日本軍のためにとった行動が、死につながったことを聞いて悲しくなりました。戦争の中、食事を日本軍に届けてくれて、軍の人たちも助けられたはずなのに、居場所を知られたというだけで殺してしまった日本軍は、心がないなと思いました。他にも、死ななくてもよかった人を日本軍が殺してしまったというあってはならないことをしてかわいそうでした。小さな島に本土以上の武器が使われ、早く降参していればと思うような事もあって、残酷だと思いました。戦争を体験したカンポーヌクエーヌクサーが、だんだんと減ってきている中で、沖縄戦のことや戦争の恐ろしさを伝える人が減っているのを、自分が聞いたこと、思ったことをしっかりと次の世代へ伝えて、忘れないようにしたいと思いました。(2-2高崎小春)

・講演を聞いて、今まで分からなかった戦争についてのことがわかりました。自分たちの身近にある忠魂碑などは、あるのは知っていたけど、どういうものなのかは分かりませんでした。話を聞くと、戦った人を祀るためにあることがわかりました。印象に残ったエピソードは、太田さんの話です。日本軍に食料をわたしていた人が、日本軍に殺されるという話を聞いて、その時の状態や人々の思いがわかりました。この講演で学んだことを生かしてこれからの生活のありがたさを実感していきたいです。(2-2喜屋武隼人)